



株式会社フォーシックス（てつたろう）
イーデリ利用者様インタビューレポート

2022年2月24日

てつたろうインターン生 坂井瑞希 作成



【インタビューを行うに至った経緯】

私はインターンに来る前、イーデリについて理解するために、ホームページやてつたろうの youtube などを見ました。実際にインターン生として私がこの 2 週間、てつたろうおよびイーデリ事業の理解をしていく中で、新しく知る情報が多く見つかった。情報の透明度を高めるためにも、分かりやすい情報の開示が必要だと考えられるが、そのためにはイーデリを実際に利用されている方がイーデリについてどこまで、どのように理解されているのか知る必要があった。

【インタビュー対象】

立場やイーデリ利用きっかけの違う 3 人の利用者様

【インタビュー形式】

対面、もしくは zoom

【質問内容】

主に、

- ・イーデリを知られたきっかけ
- ・イーデリ利用にいたった経緯
- ・イーデリについてのご意見
- ・イーデリの情報についてどこまでご存じかについて伺った。



【次頁よりインタビュー詳細】

弁護士法人貴陽 井上 陽 様、坂 房和 様

2021 年 7 月から法人としてご利用いただいています。

ーイーデリを知られたきっかけ

お店の前を偶然通りかかって、今度行ってみようかなという事でネット検索したのがきっかけです。そこでイーデリ事業の記事を発見し、てつたろうに興味を持ちました。

ーイーデリに参加された理由

これまでに貧困者への融資をしている団体の立ち上げに携わった経験があります。その中で、ボランティア活動には、継続性の面で不安定さがあると感じました。だから持続可能な支援について強く考えるようになったんです。そんな時イーデリを見つけ、自分たちのこれからに役立てるためにも見届けたいと思いました。てつたろうを応援したいと思う気持ちでイーデリに参加していますが、持続可能性という観点からイーデリの仕組み自体にとても興味があるというのも参加の理由です。

ーてつたろうがイーデリをする良さ

本業が飲食店で、本業の範囲内でできているのが目に見えて、持続可能性というのが分かることですかね。プラットフォーム、サブスク、持続可能性という、今世の中に強く求められていることをされていると思っています。私たちがてつたろうを支援することで、てつたろうが誰かを支援できるという形がとても良いと思いますね。

ーイーデリの情報収集方法

基本的には Facebook です。てつたろうと柳川社長をフォローしています。それと実際にお店に行って社長とコミュニケーションをとっているというのもあります。

ーイーデリの不明点・改善点

私達はよくてつたろうを訪れていますが、店内でイーデリを感じる場所があまりないので店内でより大々的にイーデリを行っていることを打ち出してもいいと思いました。**※1** それと、社会にとって良いことをするのであれば、長くやっていくために利益を出していくことが重要だと思っています。無償でやることには持続可能性が低い。これからも続けていくためにもっと利益を出して、それによって世の中にイーデリを行う企業がより増え、そして社会がより良いものになればと思っています。

※1 店内のメニューのところにイーデリの情報はありますが、あまり大々的にイーデリを打ち出すと、純粋に食事をしにいらっしゃるお客様にとってうるさく感じるのではないかと躊躇しています。邪魔じゃない程度に店内にもイーデリを知るきっかけがあるにはどうしたらいいか、現状課題として考え中です。

TRUST Relation 株式会社 田井 大介 様

2021年7月から法人として、そして個人としてもご利用されています。

ーイーデリを知られたきっかけ

2021年1月に、柳川社長から直接「こういう事業を行おうと考えている」という話は聞いていました。SNSを通じてそれが始動したことを知りました。

ーイーデリに参加された理由

柳川社長の真っ直ぐで熱い人柄を以前からとても尊敬していて、関わっていきたくて思っていました。その関わりのきっかけがイーデリでできると思ったんです。関わりを持っていることで、柳川社長の考え方や価値観を自社の社員にも共有でき、これから事業の中で我々もいつかイーデリのようなサービスができればと考えています。法人と個人、どちらとしてもイーデリ利用をしているのはそれが理由です。このプロジェクト自体が我々の勉強になっています。

また、コロナ渦の中であっても、子供たちの未来のために「お店に行けないけど経済を動かさない」と思っていて、その手段としてイーデリに参加したというのも理由の一つです。

ー「関わりたい」

自分の病気やコロナ自粛生活をきっかけに、食の大事さを感じました。従業員の最低限の生活を守るためには、食が必要不可欠です。作物は、知恵や技術でできます。知恵や技術はお金にかえることはできない豊かさです。今はイーデリ利用というお金のツールしかないためお金を使っていますが、お金に囚われない観点で、物事の回りを作っていきたくてです。そういう意味で僕は将来、作物の提供という形で関わっていきたくて思っています。

ーイーデリの情報収集方法

そもそもSNSをそんなに見る方ではないので、Facebookを開いた時につたろうが更新されていればチェックしている、という感じです。共通の知り合いもいますし、何より柳川社長を信頼しているため、僕自身はそんなに情報提供の重視はしていません。イーデリの仕組み自体は柳川社長から直接話を聞いて理解しました。

大阪府在住 50代 女性

2021年7月から個人としてイーデリをご利用されています。

ーイーデリを知られたきっかけ

会社でインターネット新聞を取っていて、たまたまてつたろうのファンDが目につきました。食の支援の記事自体はなかなかないので、珍しく思ったんです。以前てつたろうの近くで勤めていて、お店の前を通ったこともあり、親近感を抱いて、記事※2に飛びました。その記事のリンクから、イーデリのページに飛びました。

ーイーデリに参加された理由

これまで西成区での炊き出しの話をよく耳にすることがあり、路上生活者の方の支援は自分にとって身近なものになっていたのですが、参加したことが無く、それが少し心に引っかかっていました。また今人生の折り返し地点に立っているなと思い、人生を振り返ったとき、誰かの役に立てているのかなと疑問に思うことがあるんです。少しでも役に立てたらと思い、国境のない医師団やフィリピンの助産院、京都の門跡寺院など、縁を感じたり気になったりしたところに寄付を始めました。自分の持っているもので人に喜んでもらいたいというのがあるんですけど、自分ができる範囲で直接支援をするよりも、支援を行う専門の人たちを応援するという形で支援をすることで、より役に立つことができるのではないかと思いました。

ーイーデリの情報収集方法

メールで送られてくる月次レポートを読んでいます。あとは、ネットで検索をかけて調べた時に出てくる記事とかですかね。

ーイーデリについてご存じの事

今回のインタビューの中で、改めてイーデリについて伺いましたが、初めて知る話ばかりでした。お店に行くことができないので、できたらブログや、ホームページからも情報収集したいです。もっと手軽に、短いものでもいいので。

ーイーデリの改善点

利他主義すぎるとは、良くないと思います。利益がない状態でできることではないので、持続可能な観点から言っても、お弁当を作ることてつたろうには利益を出してほしいです。

※2 ご覧になられたプレリリースの記事

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000004.000073522.html>

【インタビュー結果と考察】

イーデリを知ったきっかけ、理解した方法が社長を通じてというものが多くありました。広告をバンバン打ち出せばいいのかというと、そうではありませんが、社長だけで広げていくのは難しいので、ターゲットを絞って新しいプロモーションを考えたいと思いました。

また、イーデリの情報を利用者様がどれくらい求められているのか、こういったものを使って主に情報収集されているのかを知りたいというのが、今回個人的には一番知りたいところでした。てつたろうは YouTube や各 SNS、月次レポートなど様々な方法で情報開示をしています、その内容については改善の余地があることに気づくことが出来ました。

一番問題に感じたのは、イーデリを通じて利益が出ていることがあまり利用者様に伝わっていないのでは、という点です。持続可能性がイーデリの良さなのに、ボランティア精神のみで行っているとされていては元も子もありません。食事券としてお店をご利用された場合、純粋に飲食店の利益へと繋がるため飲食店の応援に繋がります。また、食事券として店内利用されない場合、1000円分のお弁当の半分は材料費、その他 NPO 法人への支給、その残りは粗利になります。なので、社会貢献にも飲食店応援にもなります。そのため、無償で支援しているわけではなく、利益も生まれる前提で収支計画を行っています。しかし、そこのあたりが世に出ていないという事に気づくことが出来たため、情報の開示をしていきたいと思いました。また、NPO 法人が食事作り・提供するよりも、技術や環境が整っているてつたろうが食事を作ることで NPO 法人も食中毒などのリスク回避、時間削減となり、NPO 法人側へのメリットがあるということも、伝えていってもいいかなとも思いました。

真剣であるほど、小さな問題に気付かないものだと思います。それらを見つけ、改善するためには「利用者様の声」は無くってはならないものでした。上記にあげた問題点は、社内で話し合いながら具体的な策を考え、改善していきます。

これからもてつたろうをよろしく願います。

